

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580020	
事務事業名	水族博物館一般管理事業	
予算書の事業名	2. 一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林 芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
水族博物館の施設の維持管理と運営。修繕は除く。				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①水族博物館の施設 ②県内外の入館者 (市民を含む)	→	対象指標	① 年間入館者数	人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000
	② 水族博物館施設			式	1	1	1	1	1	
	③									
手段	<平成21年度の主な活動内容> 水族博物館の施設の維持管理と運営 *平成22年度の変更点 ①委託業務の一部見直し	→	活動指標	① 入場料その他の収入	千円	65,552	78,936	71,105	68,599	68,599
	② 改善した委託業務			契約	0	2	1	1	0	
	③ 節減した委託料			千円	0	2,700	2,000	500	0	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①入館者が不都合や不快感を感じることなく、水族博物館で過ごすことができる。 ②施設の不具合を早期発見し、対応することができる。③入館者が増加する。	→	成果指標	① 本年度の入館者数/前年度の入館者数	%	96.99	106.86	93.90	100.00	100.00
	② 入場料その他の収入/歳出合計			%	35.71	51.97	35.86	35.55	35.55	
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 地域で学ぶためのネットワークが構築され、学ぶことを通して気軽に社会参加し、地域活動を通して活力ある地域づくりが進められています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				③その他(使用料・手数料等)	(千円)	88,504	93,757	96,414	96,414	96,414
				④一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	88,504	93,757	96,414	96,414	96,414
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
①施設の老朽化 ②入館者の減少 ③近県に大型の水族館や動物園などの施設ができた。 ④余暇の過ごし方の多様化。 ⑤委託業務内容の変化 ⑥諸経費の高騰 ⑦施設整備に伴う地方債の償還				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,900	1,800	1,900	1,900	1,900
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	7,990	7,569	7,990	7,990	7,990
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	96,494	101,326	104,404	104,404	104,404
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：入館者増、高齢者割引の設定 隣売店：外部施設の充実 市民：特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input type="radio"/> 把握している	→	県内他市に比較できる水族館がない。				
				<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 入館者にとって快適な施設の状態を維持することで、入館者 (リピーター) の増加と学習意欲の向上が期待できる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 施設の充実と接客の充実により成果向上が見込める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より顧客ニーズに合ったサービスの提供が可能になり、効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 施設設備の老朽化に伴う修繕に対応し、かつ施設の充実とサービスの向上を目指す事業費の削減は難しい。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地あり	説明 入場料 (団体割引制度や入館者斡旋契約等) 及び減免制度に見直しの余地がある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 入館料は、昭和56年の開館以来、消費税分を値上げしただけである。平成21年度より土日祝日の中学生以下の入館料を有料とし、市内在住の中学生以下は全開館日の入館料を無料にした。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない
11. 事務事業実施の緊急性
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

100周年に向けての館内施設 (展示水槽や省エネと展示効果向上のための照明改修等) のリニューアルを検討する。	二次評価の要否
	不要

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580020	
事務事業名	水族博物館施設管理事業	
予算書の事業名	2. 一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林 芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
水族博物館施設の維持・管理する事業				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 計画した修繕件数	件	7	12	12	12	12
	①水族博物館の修繕を要する施設、設備		② 当初修繕予算	千円	3,000	3,100	3,300	7,000	7,000
			③						
手段	<平成21年度の主な活動内容>	活動指標	① 計画の中で実施した修繕件数	件	2	2	3	4	4
	水族博物館の施設・設備の修繕の実施		② 実施した修繕の総件数	件	60	48	60	60	60
	*平成22年度の変更点 変更無し		③ 修繕に要した費用	千円	5,082	3,295	3,300	7,000	7,000
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	成果指標	① 計画の中で実施した修繕件数/計画した修繕件数	%	29.00	16.70	25.00	33.33	33.33
	①施設・設備が適切に管理ができる。		② 計画の中で実施した修繕件数/実施した修繕の総件数	%	3.33	4.17	5.00	6.67	6.67
			③ 修繕に要した費用/前年度の修繕に要した費用	%	169.40	64.84	100.20	212.10	100.00
その結果	<施策の目指すがた> 地域で学ぶためのネットワークが構築され、学ぶことを通して気軽に社会参加し、地域活動を通して活力ある地域づくりが進められています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか)				財源内訳					
昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。				(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	5,082	3,295	3,300	7,000	7,000
				(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	5,082	3,295	3,300	7,000	7,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	2	2	2
開館以来28年が経過し、施設・設備の老朽化に伴い、修繕費が増大している。また、当初計画をしていない突発的な修繕が多くなってきており、職員等で小修繕を行っているものの、当初予定していた修繕を先送りしたり、補正予算を計上せざるえない。今後も修繕費の増加が見込まれるので、抜本的な修繕計画の見直しが必要である。				②事務事業の年間所要時間 (時間)	740	980	740	740	740
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	3,112	4,121	3,112	3,112	3,112
				事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	8,194	7,416	6,412	10,112	10,112
				(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
市民：授乳室の設置要望。安全対策の向上要望。				<input type="radio"/> 把握している <input checked="" type="radio"/> 把握していない	県内他市に比較できる水族館がない。				

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 施設の適切な維持・管理は、当館での生涯学習の推進に直結するため必要性が高い。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直し場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 修繕計画の策定と適切な実施により、施設の基本的機能を維持できる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より効率的な維持管理を行えるなど効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 施設の老朽化に伴い、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 人件費を削減するとその分、日頃のメンテナンスに関する時間が減少し、事業費が増大する。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地あり	説明 業務内容の見直しで、適正化できる可能性はある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 修繕工事費の増加が入館料に反映されていないので、今後も受益者負担は少ない。現状では、機会を捉えた入館料の値上げも検討に入るべきである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input checked="" type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input checked="" type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低いだが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括

① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり

(2) 今後の事務事業の方向性

<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	年度
<input type="radio"/> 終了	
<input type="radio"/> 廃止	
<input type="radio"/> 休止	

他の事務事業と統合又は連携  
 目的見直し  
 事務事業のやり方改善

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	平成25年の開館100周年に向けて、計画策定した修繕内容を遅滞なく実施する。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	計画的な修繕・改修を行うことで、一時的にはコスト増になるが、長期的には良好な施設状態になることでコストダウンが見込まれる。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

老朽化した設備等の大規模修繕については、優先順位をつけて100周年に向けての計画に組み込み、多発している小修繕についても、連鎖的に大事故に繋がらないよう、的確・迅速に対応する。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	13380060	
事務事業名	水族博物館観客誘致事業	
予算書の事業名	6. 観客誘致事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	当面継続
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林 芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	132023
政策の柱	第1章 明日を築く活力あるまち	
政策名	第3節 まちの活力を育む工業・商業・観光の振興	
施策名	2. 観光の振興	
区分	観光ネットワーク	
基本事業名	観光案内・PR活動機能の充実、強化	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
県内外の観光業者へのPR及び入館者に対するサービス向上による入館者の増加を図ることを目的としている。ただし、広告宣伝事務は除く。				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 入館者数	人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000	
	② 観光業者									
	③ 市内外の宿泊施設									
手段	<平成21年度の主な活動内容> ①外部イベントでのPR活動 ②パンフレットの送付 ③イベントの実施 ④お正月飾りつけとプレゼント実施 ⑤工事期間限定プレゼントの実施 ⑥市内宿泊施設利用者の割引 ⑦福利厚生組織との連携 ⑧フレンドショップ制度の開始 ⑨オリジナル商品の開発・販売 *平成22年度の変更点 変更無し	活動指標	① 団体入館者数	人	26,648	33,843	32,000	32,000	32,000	
	② 優待券利用者数		人	11,588	17,328	8,500	9,000	9,500		
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①観光業者が水族館をPRし、お客さんが来館する。 ②入館者が満足する。 ③魚津市内宿泊者が来館する。	成果指標	① 団体入館者数/入館者数	%	18.44	21.92	19.39	18.82	22.07	
	② 優待券利用者数/入館者数		%	8.02	11.22	5.15	5.29	6.55		
	③									
その結果	<施策の目指すすがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人を訪れています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の水族博物館の開館に伴い、観光業者からの利用客の誘致のために始まった。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	661	1,984	2,202	2,202	2,202
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	661	1,984	2,202	2,202	2,202
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
①近隣の水族館・動物園・博物館のリニューアルや施設の増加。 ②入館者の減少。 ③交通網の発達により、入館者の移動距離の拡大。 ④来館者ニーズの多様化。 ⑤少子化。				②事務事業の年間所要時間	(時間)	280	300	280	280	280
				B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	1,177	1,262	1,177	1,177	1,177
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	1,838	3,246	3,379	3,379	3,379
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会:施設の有効利用と入館者増を図る。隣接の売店:客を集めて欲しい。市民:特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input type="radio"/> 把握している	県内他市に比較できる水族館がない。					
				<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 冬季間を除き、無休で閉館している施設であり、今後の魚津市の交流人口を維持・増加させていくためにも、当館のみならず魚津市全体の情報発信源として活用していくことが望ましい。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) のため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
あり	説明 観光業者への訪問は廃止したので、今後は個人入館者や外国人観光客をターゲットにする必要がある。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 ホームページの運用の連携で、成果の向上の余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 市内博物館や商工観光課、商工会議所、漁協などと情報の受発信や合同イベントの実施など、今以上に連携することで、効果が期待できる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 パンフレットの見直しやオリジナル商品の制作・販売で一時的に事業費は増大するが、長期的には収入増を見込めるので、事業費は削減される。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 今後、より関連施設や協力者と密接に連携する必要があるため、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地あり	説明 関連機関との連携方法を毎年、見直すことで、適正化の余地がある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 関連施設や業者との契約内容の見直しの中で、見直す余地がある。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施    年度	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input checked="" type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	平成25年の当館閉館100周年に向け、観客誘致計画の見直しの実施 市内博物館との合同企画の実施 コストの方向性 削減
	中・長期的 (3～5年間)	平成25年の開館100周年に向け、継続的かつ計画的な見直しの実施 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

魚津市内の博物館や関係施設等と連携した広告宣伝はもとより、広く新川広域圏としての観光客誘致による入館者増をめざす。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	13380060	
事務事業名	水族博物館ホームページ運用事務	
予算書の事業名	6.観客誘致事業	
事業期間	開始年度	平成10年
	終了年度	当面継続
	業務分類	5.ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	09070100
部名等	(教育機関)
課名等	水族博物館
係名等	管理係
記入者氏名	小林 芳久
電話番号	0765-24-4100

政策体系上の位置付け	コード2	132023
政策の柱	第1章 明日を築く活力あるまち	
政策名	第3節 まちの活力を育む工業・商業・観光の振興	
施策名	2. 観光の振興	
区分	観光ネットワーク	
基本事業名	観光案内・PR活動機能の充実、強化	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
インターネット・ホームページを利用した情報発信による入館者増				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① ホームページアクセス数	回	113,835	122,837	130,000	135,000	135,000	
	② 年間入館者数		人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000		
	③									
手段	<平成21年度の主な活動内容> ホームページを使った、イベント案内・利用案内。ホームページに寄せられた質問に対する回答。携帯電話用のホームページの配信。メールマガジンの配信。法人サポーターのページの開設。飼育係からの話題提供。	活動指標	① ホームページ更新回数	回	233	260	250	270	270	
	*平成22年度の変更点 変更無し		② メールマガジンの配信	回	10	6	10	12	18	
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	成果指標	① アクセス数の前年対比	%	96.59	107.91	104.00	103.85	100.00	
	①対象者の魚津水族館に関する興味を増加させ、来館を促す。 ②魚津水族館に興味があるが、来館に至らない対象者を来館へつなげる。		② 入館者の前年対比	%	96.99	106.86	93.90	100.00	100.00	
	③									
その結果	<施策の目指すすがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人々が訪れています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成10年。多くの水族館や動物園などの施設でホームページが開設され、旅行雑誌よりもホームページから情報を得ようとする人が増えたから。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	331	294	307	307	
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	331	294	307	307	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 平成16年にホームページをリニューアルし、ライブカメラを設置した。家庭への高速インターネットの急速な普及により、益々情報発信源としてのホームページの重要性が増している。また、携帯端末サイトで情報を得ている人も増加している。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	160	160	160	160	
				B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	673	673	673	673	
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	1,004	967	980	980	
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民: 内容の更新を頻繁に行って欲しい。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	比較できる同様の施設がない。 しかし、県内の動植物園もホームページは開設している。					
				<input type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 ホームページは、タイムリーな情報を全国の方に提供できるので、魚津市への観光客誘致に対する貢献度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 当館の展示や活動などに興味を持ってもらいやすくなるようなページレイアウト、コンテンツの精査・充実、動画配信など、成果の向上の余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある事務事業として、広告宣伝事業があげられる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 使用機器の定期的な見直しによる余地はあるものの、新たな内容構成の作成や構成の見直しは、外注することになり、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 発信情報の更新やコンテンツの充実が、サイト訪問者の増加につながるため、業務時間は増える。(ただし、一定以上のHTML運用スキルを職員に対し義務化するのであれば改善の余地はある)

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり  適正化の余地あり	説明 一般的には、ホームページの運用自体は情報の発信手段であり、特定の受益者はいない。ただし、関連事業の法人サポーター制度は、導入にあたり受益者負担を求めており、さらなるサポーターの増に向けて協賛金額設定の見直しやサポートに対するフォローなどの導入を検討していく余地はある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 法人サポーター制度については参加法人の増加を図ることにより、水族館としての受益者負担額を増加することができる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低いですが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

実施予定時期	次年度 (平成23年度)	平成21年度で行った、ホームページの充実の結果を観察する。今後のホームページ改修計画を策定する。	コストと成果の方向性 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	平成25年の開館100周年に向けて、ホームページ内での展示魚類の解説の増加などを行い、利便性の向上を図る。	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

ホームページ自体の見直しやタイムリーな話題提供など内容の充実を図り、閲覧者の増加をめざす。	二次評価の要否
	不要

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	13380060	
事務事業名	水族博物館広告宣伝事務	
予算書の事業名	6. 観客誘致事業	
事業期間	開始年度 昭和56年	終了年度 当面継続
業務分類	5. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林 芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	132023
政策の柱	第1章 明日を築く活力あるまち	
政策名	第3節 まちの活力を育む工業・商業・観光の振興	
施策名	2. 観光の振興	
区分	観光ネットワーク	
基本事業名	観光案内・PR活動機能の充実、強化	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
魚津水族館の魅力や活動をPRし、入館者の増加を図る事業。				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 入館者数	人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000	
	② 団体入館者数		人	26,648	33,843	32,000	32,000	32,000		
	③									
手段	<平成21年度の主な活動内容> ①テレビ、新聞、雑誌等への広告掲載 ②JR魚津駅、地鉄富山駅、宇奈月駅の看板 ③情報誌への情報提供 ④報道機関への情報提供	活動指標	① テレビCM、新聞、雑誌の広告件数	件	28	32	25	25	25	
	*平成22年度の変更点 変更無し		② 広報による新聞掲載(確認分)	件	92	164	200	220	220	
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	成果指標	① 入館者の前年対比	%	96.99	106.86	93.90	100.00	100.00	
	①市民の関心が魚津水族館に向き、市民の来館が増える。 ②水族館の魅力が伝わることで、県内外の入館者が増加する。 ③遠足の利用が増え、入館者が増加する。		② 団体入館者の前年対比	%	92.49	127.00	94.60	100.00	100.00	
	③									
その結果	<施策の目指すすがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人々が訪れています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 昭和56年の水族博物館の開館に伴い、施設の紹介と普及、PRのために始まった。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	2,789	2,688	2,600	2,600	2,600
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計)	(千円)	2,789	2,688	2,600	2,600	2,600
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
①開館以来27年が経過し、施設が老朽化。 ②近隣の水族館・動物園・博物館のリニューアルや施設の増加。 ③余暇の過ごし方の多様化。 ④長期不況による観光客の減少。				②事務事業の年間所要時間	(時間)	280	260	280	280	280
⑤交通網の発達により、入館者の移動距離の拡大。 ⑥高速道路料金の値下げ				B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	1,177	1,093	1,177	1,177	1,177
⑦少子化による遠足客数の減少。 ⑧広告予算の削減。				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	3,966	3,781	3,777	3,777	3,777
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：PRを充分に行い入館者増を図る。 隣接の売店：水族館がマスコミに載るイベントの実施と新施設の増築を行って欲しい。 市民：特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	滑川市は、ホテルイカのキャラクターを公募し、ホテルイカミュージアムへの観光客の誘致を計画している。					
				<input type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 マスコミへの広告やイベント情報、ニュース情報の提供による新聞、テレビでの掲載は、魚津水族館に関心が向き、魚津市への観光客が増加する。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 アンケート調査などにより顧客ニーズや観光客の動向などを把握し、広告宣伝につなげるにより、成果の向上が見込まれる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 ホームページの運用事務との連携により効果が上がる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 広告媒体の有効性や費用対効果を検証することで、事業費の削減の余地がある。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 情報発信の回数が事業の効果を高めるので、削減の余地がない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし 適正化の余地あり	説明 各広告媒体の有効性や費用対効果を検証することで、適正化の余地がある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 広報の方法を検討することで、より受益者負担の水準を下げる余地がある。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input checked="" type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 削減
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

広告宣伝の内容を精査し、効果を高めるとともに新展示・新企画などの情報を積極的に発信する。	二次評価の要否
	不要

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580070			
事務事業名	水族博物館施設整備事業			
予算書の事業名	7.施設整備事業			
事業期間	開始年度	平成20年度	終了年度	当面継続
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営
業務分類	1. 施設管理			

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林 芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)	単位	実績		計画			
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
海洋水槽への水中会話設備の導入 魚津水族館開館100周年に向けた事業計画の作成 事業計画に基づく当館施設の修繕やリニューアルの実施							
(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①入館者 ②魚津水族館館内設備	対象指標	① 年間入館者数 人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000
		② 対象設備 (海洋水槽) 式	0	1	0	0	0
		③					
<平成21年度の主な活動内容> ①海洋水槽魚類解説設備設置工事 ②魚津水族館開館100周年事業策定調査 *平成22年度の変更点 ①魚津水族館開館100周年事業計画に基づく計画的な修繕とリニューアルを行う	活動指標	① 海洋水槽魚類解説設備設置工事 式	0	1	0	0	0
		② 魚津水族館開館100周年事業策定調査 式	0	1	0	0	0
		③ 事業計画に基づく各種工事 式	0	0	1	1	1
(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①海洋水槽でダイバーが来館者に水槽や展示魚類の説明を行うことで来館者の満足度が上がる。 ②開館から100周年となる平成25年9月に向けて、魚津水族館で実施する事業を策定し、計画的に改修を行うことで、よりよい施設の運営・管理をめざす。	成果指標	① 入館者の前年対比 %	96.99	106.86	93.90	100.00	100.00
		②					
		③					
<施策の目指すがた> 地域で学ぶためのネットワークが構築され、学ぶことを通して気軽に社会参加し、地域活動を通して活力ある地域づくりが進められています。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 入館者の満足度については、今後、アンケート調査を行う。					
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 平成12年度頃から、海洋水槽の老朽化が目立ちはじめた。平成20年度に開始した。	財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
		(2)地方債 (千円)	18,600	0	0	0	0
		(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	15,684	56,634	4,750	4,750	4,750
		(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0	0
		A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	34,284	56,634	4,750	4,750	4,750
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ①近隣の水族館、動物園、博物館のリニューアルや施設の増設。 ②来館者のニーズの多様化		①事務事業に携わる正規職員数 (人)	4	3	3	3	3
		②事務事業の年間所要時間 (時間)	960	700	1,000	1,000	1,000
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	4,037	2,944	4,205	4,205	4,205
		事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	38,321	59,578	8,955	8,955	8,955
		(参考) 人件費単価 (円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 特になし。	◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) ● 把握している → 富山県内に同様施設を持つ施設がない。 ○ 把握していない					

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 生涯学習施設として、施設の抱える問題点や改善策を実施し、良好な状態に維持管理する必要度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 今後、導入した設備をうまく活用することでの成果向上の余地はある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 平成 25 年度までは、継続して事業費が必要。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 工事の発注関係の業務、事業計画策定のための事務・打合せが主になるため削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 通常イベントを行うための設備の導入や将来的な水族館管理運営の適正化を図る事業であり、特定の受益者はいない。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 来館者を特定受益者とはみなしにくいですが、今後は、設備の新設または改修の機会を捉えて入館料の引き上げを検討すべきである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	平成 25 年の開館100周年に向けて、計画的な修繕とリニューアルを行う。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	開館100周年に向けて、計画的な修繕とリニューアルを行う。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

水族館全体を含めた改修計画を行う。将来的な見通しを踏まえて改修を遅滞なく進める。	二次評価の要否
	不要

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580030				
事務事業名	水族博物館事業				
予算書の事業名	3.博物館事業				
事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
① 水族館の常設展示生物の飼育・管理 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③ その他普及活動に関わること		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 常設展示生物 ② 入館者 ③ 市民	→ 対象指標	① 常設展示生物種数	種	389	333	400	400	400
			② 年間入館者数	人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000
			③						
手段	<平成21年度の主な活動内容> ① 水族館の常設展示生物の飼育・管理 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③ その他普及活動に関わること	→ 活動指標	① 展示生物数	点	15,120	13,653	15,000	15,000	15,000
	*平成22年度の変更点 水族館探検ツアーの実施		② 展示生物購入金額	千円	2,825	2,800	2,800	2,800	2,800
			③ 普及活動参加人数	人	5,140	5,394	5,500	5,500	5,500
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ① 展示生物をよい状態で飼育できる。 ② 入館者が生物に興味を持ち、生涯学習の推進になる。	→ 成果指標	① 本年度の展示生物数/前年度の展示生物数	%	100.00	90.30	100.00	100.00	100.00
			② 展示生物購入金額/博物館事業費	%	34.52	35.75	35.75	35.75	35.75
			③						
その結果	<施策の目指すがた> 学ぶことへの意欲をさらに高め、市民一人ひとりが、充実した生活を送っています。		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 対象年の一府八県連合共進会の第2会場として初代魚津水族館が開館。昭和29年に富山産業博覧会の魚津会場として2代目が建設され、昭和56年に現在の三代目が開館した。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0	
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0		
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	6,774	7,030	7,600	7,600	7,600	
			(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0		
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	6,774	7,030	7,600	7,600	7,600	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ① 施設老朽化 ② 近隣の水族館、博物館の増設やリニューアル ③ 少子化			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	1	1	1	
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	1,000	1,000	500	500	500	
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	4,205	4,205	2,103	2,103	2,103	
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	10,979	11,235	9,703	9,703	9,703	
			(参考) 人件費単価 (円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：入館者増。ペンギン展示の工夫		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		● 把握している	比較できる施設がない。						
		○ 把握していない							

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	水族館を通して水生生物に興味がわき、学習意欲が促進され、生涯学習が推進できる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	適切

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	職員の調査研究や技術の向上に伴い、成果は上がると思われる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	市内の博物館と連携をとることで展示・集客効果が高まる可能性はある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	事業費は展示生物や普及活動にかかるもので、削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	職員は、交代勤務であり半数しか常時勤務していない。展示水槽の維持管理・普及活動のことを考えると人員削減は入館者および市民サービスに影響が出てくるので削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし	当館は市で運営しているため、他の市町村と区別して、市民に還元する必要がある。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	市民へのフィードバックは今後、より一層必要となる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

他の水族館との差別化を図るためにも、より地元の生物に展示内容を特化させ、展示方法・解説等にもさらに工夫を重ねる。 また、市内小学校へのアウトリーチ活動 (出前水槽・サケの水槽クリニックなど) や講師派遣など、学校との連携をさらに深めていく必要がある。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580040	
事務事業名	水族博物館企画展事業	
予算書の事業名	4. 企画展事業	
事業期間	開始年度 昭和59年	終了年度 当面継続
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	
	業務分類	5. ソフト事業

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
担当者がテーマを選び、特別展会場で展示を行うもの。事業の実施により入館者の増加と水生生物の知識が増える。				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 県民・魚津市民 ② 県外の観光客	→	対象指標	① 年間入館者数	人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000
	②									
	③									
手段	<平成21年度の主な活動内容> 夏の特別展、春のホタルイカ展示、イベント時の特別展示、写生大会の開催 *平成22年度の変更点 水槽クリニック メダカ編の実施。他は同じ	→	活動指標	① 特別展開催期間の入館者数	人	113,656	108,943	120,000	120,000	120,000
	②									
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 特別展の実施により水族館に関する知識が高まり、入館者が増加する。また、入館者は水生生物に関する知識と興味が増す。	→	成果指標	① 特別展開催期間中の入館者/年間入館者数	%	79.00	70.50	79.00	79.00	79.00
	②									
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 地域で学ぶためのネットワークが構築され、学ぶことを通じて気軽に社会参加し、地域活動を通して活力ある地域づくりが進められています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和59年から実施。入館者の減少に伴い、入館者の多い春のホタルイカの時期と夏休みを中心に開催。夏は毎回テーマを変えて開催している。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	2,171	2,256	2,431	2,431	2,431
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	2,171	2,256	2,431	2,431	2,431
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 年々、企画展に関わる費用は減少しており、従来は業者に発注していた看板類を職員が作成しなくてはならなくなった。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	1	1	1
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,800	1,800	900	900	900
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	7,569	7,569	3,785	3,785	3,785
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	9,740	9,825	6,216	6,216	6,216
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				● 把握している	富山県内の動物園・博物館が独自の企画展を行っている。					
				○ 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 企画展は、入館者に対して生涯学習のきっかけを与える意味が大きく、貢献度は大きい。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切である。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 世間の関心ごとを把握することで、成果の向上が望める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 埋没林博物館、歴史民族博物館や水産業・商工業と連帯した企画をすることで、今より実施効果が高まる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 世界中の生物が手に入る時代であり常設展示だけでは入館者の増は望めない。そこで、情報の発信源並びに集客の柱となる企画展の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 少ない予算と人員で行っているため、削減はできない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地あり	説明 企画展は、開催期間中にしか見ることができないのにもかかわらず、入館料は一緒である。企画展やイベント時に特別料金の設定が可能。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 少ない経費で企画・実施しているため、手作りにしている部分が増えている。職員も交代で休んでおり、担当者も1日企画展に時間を割かれるわけではないので、コストの低下には受益者負担を求めることも必要。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括

① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり

(2) 今後の事務事業の方向性

<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	年度
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

企画展の開催により、様々なメディアに新たな情報を発信することができ、また当館自体の宣伝・波及効果が高い。 今後はより斬新で話題性のある企画展の開催が必要である。	二次評価の要否
	不要

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580050	
事務事業名	水族博物館調査研究事業	
予算書の事業名	5.調査研究事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	当面継続
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313014
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	地域で学ぶためのネットワークづくり	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
① 他園館からの情報収集 ②水生生物および地元生物の調査・研究		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 飼育職員 ② 展示情報 ③ 展示生物及び地元の河川・海の生物	対象指標	① 飼育職員数	人	7	7	7	7	7
			② 研究会参加回数	回	5	3	5	5	5
			③ 計画調査数	件	3	3	3	3	3
手段	<平成21年度の主な活動内容> 日本動物園水族館協会が実施する水族館飼育技術者研究会に参加 *平成22年度の変更点 変更無し	活動指標	① 研究会参加職員数	人	2	3	2	2	2
			② 参加研究会回数	回	2	2	2	2	2
			③ 調査実施回数	件	3	3	3	3	3
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ① 他園館職員との情報交換により職員の飼育技術が向上する ② 地元生物の現状を把握できる	成果指標	① 調査実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
			②						
			③						
その結果	<施策の目指すがた> 地域で学ぶためのネットワークが構築され、学ぶことを通して気軽に社会参加し、地域活動を通して活力ある地域づくりが進められています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の開館に伴って、他園館との情報交換、飼育技術の向上という理由から始まった。調査研究は平成2年度の年報発行のために開始した。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0	
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0		
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	176	174	182	182		
			(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0		
			A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計) (千円)	176	174	182	182		
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 他園館の飼育設備の向上。社会一般に環境意識が高まり、地元野生生物や環境に関する興味や関心が増している。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	1	1		
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	1,200	1,200	600	600		
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	5,046	5,046	2,523	2,523		
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	5,222	5,220	2,705	2,705		
			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205		
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 地元の河川の生物調査や、希少生物の調査を議会に要望されている。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		<input type="radio"/> 把握している	比較する同等の施設がない						
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない							

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 魚津水族館のメインテーマが「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」であり、テーマに沿った展示や普及活動を行うために重要な事業である。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) のため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 生物環境を把握でき、その環境に応じた展示ができる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連帯することで、効果が高まる可能性はあるほかの事業がない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 職員の技術向上及び展示充実の必要があり、削減できない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 水族館は交代勤務をしており、全ての職員が常時いるわけではない。採集の日も前月の休みの予定表に組み込んでいる。また、ダイバー業務も飼育職員で行っているため、削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 展示や地域生物の調査なので特定受益者は生じない。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他の市町村に同じ施設がないため比較できない。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

地元水生生物の調査・研究は、当館の展示の充実や教育普及活動に欠かせないものである。また、研究発表会や各研修等に参加することで、飼育係員の飼育技術の向上を図る必要がある。	二次評価の要否 不要
--	---------------